

# 平成30年度宝塚市子ども委員会 意見書への対応状況について



令和2年（2020年）3月

# 目次

## 平成30年度

### 1 グループ connect with people

#### 老若男女、障がいの有無に関係なくみんなが楽しめる時間をつくる・・・ 1

光明小学校	6年	澤田	一陽
光ガ丘中学校	1年	田中	大地
南ひばりガ丘中学校	1年	真辺	心美
光ガ丘中学校	1年	森本	凜太郎
大商学園高等学校	1年	前田	智弘
阪神昆陽高等学校	2年	川口	潤
高校	3年	板谷	溪菜

### 2 グループ 移転したら宝塚だった件

#### 全ての子どもが意見を言える場所を作るためには・・・ 3

美座小学校	5年	橋村	朔
山手台小学校	5年	持田	美海
宝梅中学校	2年	鋤田	奏春
山手台中学校	2年	下村	栗子
中山五月台中学校	2年	新戸	愛杏々
百合学院中学校	3年	福田	千尋
大阪明星高等学校	1年	作道	壮一朗
宝塚西高等学校	2年	奥田	陽人
親和女子高等学校	3年	前田	沙菜

担当部課：社会教育部（スポーツ振興課）、健康福祉部（障害福祉課）、学校教育部（学校教育課）

H30	グループ名	connect with people	テーマ	老若男女、障がいの有無に関係なくみんなが楽しめる時間をつくる
質問・提案内容（あらし）と答弁後の対応				
<p>質問（提案）：</p> <p>ポッチャ大会in宝塚を2020パラリンピック東京大会記念として、開催することを提案します。また、この開催に合わせて、ヘルプマークなどを啓発します。</p> <p>具体的には、ポッチャ大会は、パラリンピック2020までの1日（例えば体育の日）に、スポーツセンターや末広体育館などの室内で実施します。市内の方ならだれでも参加できます。大会に多くの人に参加してもらうために、宣伝方法として市の広報に掲載したり、自分たちでPR動画を作って市のSNSにあげてもらったりします。</p> <p>大会開催にあわせて、ヘルプマークの啓発のために紹介ブースを設けます。障がい者週間記念事業でも同様に行います。</p>				
<p>答弁：</p> <p>第1回宝塚オープンポッチャ大会を、宝塚市障害者スポーツ協会と共同で平成30年（2018年）1月21日（日）に開催しました。平成31年（2019年）1月20日（日）にも開催する予定で、子ども委員の皆さんにもチームを作って参加していただきたいと思っています。この大会が定着（ていちゃく）するように、次年度以降も継続（けいぞく）して開催することを考えています。あわせて体験（たいけん）会を開催し、市民が交流できる機会を設けていきます。ポッチャがどういふ競技か知らない市民も多いので、子ども委員の皆さんと一緒に広げていきたいと思っています。</p> <p>また、ポッチャ大会にあわせてヘルプマークに関するお知らせを配布したり、広報にヘルプマークについて掲載したりして啓発を行います。</p>				
<p>その後の対応状況：</p> <p>第2回ポッチャ大会を平成31年度（2019年度）に、第3回ポッチャ大会を令和元年度（2020年度）に実施し、それぞれ28チームに参加いただき、当日の参加者は約200名となりました。また、障碍（がい）者スポーツの体験会も毎年開催しており、普及（ふきゅう）啓発に努めています。</p>				
（スポーツ振興課）				
<p>ヘルプマークについては、広報たからづか（平成30年（2018年）6月号）に掲載しました。また、ホームページでも常に掲載しています。</p>				
（障害福祉課）				

質問（提案）：

中学校の先生に、養護学校で実施しているボッチャチーム（宝塚ボッチャ部）の活動を見学してもらい、ルールと楽しさを学んでもらいます。そして各中学校で生徒がボッチャを体験し、その様子を小学校の先生が見学します。そして各小学校で児童が体験します。ボールを順番にまわして、各小中学校で時期をずらしながら、体育の時間やホームルーム・道徳の時間などに実施します。

答弁：

先生に対して「だれもができるスポーツ」としてボッチャの魅力を紹介して、ボッチャを実際に行っている方などと協力しながら、まず先生にボッチャを楽しんでもらおうと考えています。小中学校の先生に広めて、総合的な学習や特別活動、道徳で取り入れてもらうなどして、小中学校の子ども全員がボッチャという言葉を知り、楽しさが分かるようにしていけたらと思います。市と協力しながら子ども委員の皆さんが中心になって、一緒にボッチャを広げていただきたいと思っています。

その後の対応状況：

各校の保健体育科担当教諭が集まる機会が1年に1回あるので、その場でボッチャの魅力(みりょく)を紹介し、ボッチャの取組を広げていきます。また、令和元年度（2019年度）は宝塚中学校がパラスポーツ教室を開催し、スポーツセンター体育館にて中学生を対象に授業を行いました。

（学校教育課）

担当部課：子ども未来部（子ども政策課）

H30	グループ名	移転したら宝塚だった件	テーマ	全ての子どもが意見を言える場所を作るためには
質問・提案内容（あらかし）と答弁後の対応				
質問（提案）： 具体的な提案を意見書にまとめるところまでは至らなかったため、中間発表として、これまでのような意見が出たのか発表します。 発言するために必要とされている場所については、子どもが行きやすい場所や、気軽に行ける場所、大人や先輩などに相談事を聞いてもらえる場所などです。 意見を言ったり相談したりする相手については、意見を実現することができる人や、アドバイザーのような自分に足りないことを教えてくれるような人、愚痴など言える人などです。 どのような工夫をしたら良いかについては、市に提案できる目立つ意見箱を設置したり、みんなの意見を掲示したりするといったのではという意見が出ました。 この提案については引き続き話し合う予定です。				
答弁： 市の基本方針としては、子どもの居場所の充実を図ります。また、子ども議会・子ども委員会については継続（けいぞく）して実施していきます。さらに、今まで実施している事業だけでなく、より良い子どもの社会参加の仕組みを検討（けんとう）していきます。 今回幅（はば）広い多くの意見をいただき、具体的な提案までには至りませんでした。次年度以降も引き続き考えていただきたいです。例えば、来年度の子ども委員会は、テーマを「全ての子どもが意見を言える場所を作るために」として委員を公募（こうぼ）することを検討しています。また、来年度は、宝塚市次世代育成支援（しえん）行動計画「たからっ子『育（はぐく）み』プラン」の後期計画を策定（さくてい）する予定なので、子ども委員会へも意見聴取（ちょうしゆ）をさせていただきたいと考えています。また、今ある施設（しせつ）などを利用して、子どもと大人、子ども同士が、形式にとらわれず、自由に語れる場の提供（ていきよつ）を検討しますので、その運営（うんえい）には、子ども自身に関わっていただきたいと思っています。				
その後の対応状況： 令和元年度（2019年度）の子ども委員会で、引き続き「すべての子どもが意見を言える場所を作るためには」をテーマに話し合いをしました。今回は、スクールカウンセラーへの相談をしやすくするためにどうすれば良いか、話し合いを重ねて議論（ぎろん）を深め、令和元年（2019年）11月の意見発表会で、市長・教育長に意見書を提出しました。 また、令和2年度（2020年度）からの5年間の子ども施策（せさく）に関する総合的な計画である、「次世代育成支援行動計画たからっ子『育（はぐく）み』プラン」の後期計画を策定（さくてい）するにあたって、子どもの皆さんの声を聞くことを目的に、平成31年（2019年）3月、子ども委員会の委員を対象としたヒアリングを実施しました。宝塚市の良いところや残念なところ、将来どんなまちになってほしいかなどについて、グループワークによる話し合いをしました。委員の皆さんから出た様々な意見は、計画策定の参考とするとともに、計画書の冊子にも掲載しています。大人向けの冊子なので少し難しいかもしれませんが、でき上がった冊子に解説（かいせつ）をつけて一緒に送りますので、ぜひ読んでみてください。 市としては、今後も、子どもの居場所・活動の場の充実（じゅうじつ）と、社会参加の機会の充実に努めていきます。そのためには、子ども自身の声を聞くことが何よりも大切だと考えています。今後そのような機会があれば、皆さんにもぜひ中心となって参加していただき、運営にも主体的に関わっていただきたいと思っています。これからも一緒に考えていきましょう。				
（子ども政策課）				